

先生や友だちといっしょに楽しく活動できる子

— 興味や関心のある遊びや作業を通して —

山 口 隆 司

1. K児の取り組みについて

K児は、現在小学部の5年生である。目のぱっちりとした愛らしい顔立ちをしており、口数は少ないが、三輪車乗りの大好きな女の子である。てんかん発作が1日に1回位あるが、学校生活の中では、ほとんど見られない。しかし、一般にてんかん児がもっていると言われる落ち着きのなさ、注意が散漫であること、ものへのこだわりが強いこと、無目的行動をとることが多いなど、性格、あるいは、行動上の問題が、K児にも見られる。このようなK児にとって一番欠けていると考えられるのは、集団適応能力すなわち社会性であろう。社会性は、言うまでもなく人間が社会生活をしていくためには、必要な条件であり、また身につけなければならないことである。

そこで、本児が、少しでもみんなと一緒に遊んだり、学習したりすることで、その楽しさを味わいながら、集団生活への基礎的な態度を養うことができるようになればと考え、この研究に取り組むことにした。

2. 指導の方針

K子の集団行動がとれない原因として、1人遊びが多く、したがって人間関係の広がりがなく、人と関わることの楽しさが味わえないこと、集中力に欠けること、情緒が不安定であること、見通しをもって行動することができないなど考えられる。そこで、指導の方針として、

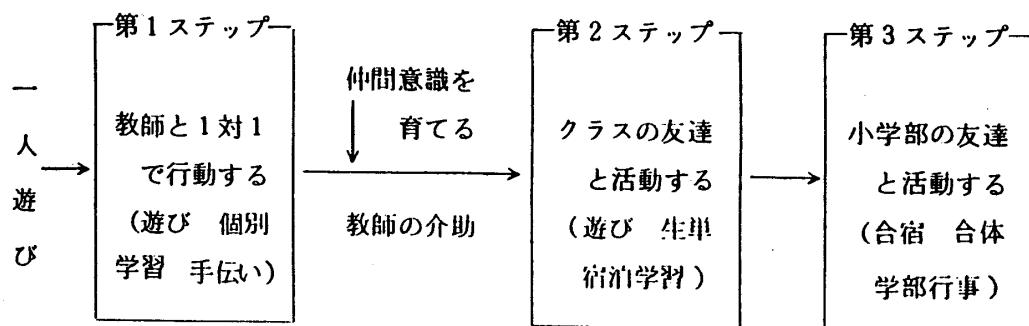
ア. 個別学習で、K子の興味や関心のある遊びや作業を通して集中力をつける。

イ. 人と接する機会をできるだけ多くする。

ウ. 教師とK子との信頼関係を作ることから始めて、情緒の安定を図る。

エ. 人との関わり方を、1対1から徐々に小集団へと広げていく。

の4つの考え、集中力をつけたり、情緒の安定を図ったりしながら、対人関係を広げていくことを指導の重点として取り組んでいくことにした。対人関係の広げ方については、次のようなステップを考えた。



3. 指導経過とK子の変容

4月当初、1人遊びを十分楽しんでいる様子がうかがわれた。しかし、自閉的傾向が強く、話しかけてもほとんど反応しないので、K子に入り込む余地がないのではと感じられた。考えた末、K子が一番生き生きとした姿を見せる三輪車乗りを一緒にして遊ぶことで、接する糸口とした。毎日の日課の中に、できるだけそれをして遊ぶことを組み入れ、校内を散歩、そして、学習時間のみならず、休けい、トイレに至るまで、1対1で共に行動していった。K子に対する基本的な態度として、スキンシップを大切に、誉めたり励ましたりすることを心がけながらも、衣服の着脱、排泄などの日常生活指導に関しては、厳しさをもつことにした。このような中で、次のような変容が見られた。

5 月	7 月	9 月	11 月
<ul style="list-style-type: none"> ・指示に対して「いけん」とか言ったりして、嫌がる素振りが多く見られた。 ・「K子」と呼んでも、振り向くだけであまり反応しなかった。 ・気の向くまま、いろいろなことをしたが、長続きしなかった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・席を立ったり、自分勝手な行動をしたりすることが、少なくなってきた。 ・話しかけると、1言2言かえてきた。 ・パズル、粘土に興味を示し、かなり長時間熱中する様子が見られた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・夏休みでのブランク、運動会の練習で、少々疲れぎみ、あまり言葉もでてこなかったが、抱きつくなどの甘えた態度をよくした。 ・教師がそばにいと大分落ち着いていた。 ・目と目で話ができるようになってきた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・指示に対して、時々嫌がる素ぶりが見られるが、素直に聞けることが多くなってきた。 ・反応がかえてくるだけでなく「なあ、〇〇して」と要求し始めた。 ・うなづくことが多かったが、「はい」と返事ができた。

(1) 第2ステップについて

K子が、興味や関心をもっているものに、のりをつけてはる作業、料理をして食べること、文字を読むことなどが挙げられる。それらを生活単元学習、宿泊学習、遊びの中に組み入れることで、クラスのみならず一緒に少しでも楽しんで活動することにつなげていきたいと考えた。ここでは、生活単元学習の中のなかよし遠足、宿泊学習の中のカレー作り、おやつ作りの3つを実践事例として取り上げてみたい。なかよし遠足については、それに至るまでの単元で、のりをつけてはる作業や文字カードと絵カードとのマッチングなどを授業の中に組み入れていった。宿泊学習については、その事前学習で **準備する** → **作る** → **食べる** → **片付ける** というパターン化した学習を繰り返すことによって、少しでも見通しをもって行動できるようにした。また、友達の世話がわりと好きなK子であったので、学習の流れの中にそういう場を設けることで、仲間意識をもたせるような配慮もしたいと考えた。

カレー作り (5月 於調理室)

学習の流れ	K子に対する働きかけ	K子の様子
<p>1. 身仕たくをする。</p> <p>2. 皮むきをする。</p> <p>3. 材料を切る。</p>	<p>1. 教師が、エプロンをつけて調理室に入る。</p> <p>2. 皮むき器を与え、皮をむこう。</p> <p>3. 今日は、○ケ切ろう。</p>	<p>1. 何も言わないのに、カレーを作るのがわかったのか、すぐにエプロンをつけようとした。</p> <p>2. 指示するだけでどんどん皮をむいていく。最終的には、にんじん2ヶジャガイモ2ヶ。身までむき始めたので止める。</p> <p>3. 自分のナイフだけでなく、友達にも配る。自分の切る分がなくなり、友達の分まで切ろうとしたので、材料をもっと出し、切らず。目標を大幅に上回り、ボール一杯になる。「たくさん切ったね」と誉めると思わずにっこり。</p>
<p>4. 切った材料、カレー粉をなべの中に入れる。</p>	<p>4. 名前を呼んだ人から来てなべに入れよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● ○○ちゃんの次だよ。待っててね。 ● なべの近くど待とうか。 	<p>4. 自分の番が待ちきれず、なべの中に入れようとする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 不満な表情をし、ボールを持って動き回る。 ● ようやく落ち着く。なべの中に入れると、すぐ「混ぜる」と言ったので、他の子と一緒にかけ混ぜさせる。カレー粉が入る度に手を叩いて喜ぶ。



なかよし遠足 (6月 於教室)

学習の流れ	K子に対する働きかけ	K子の様子
<p>1. 子どもの国遠足の話聞く。</p> <p>2. 遠足に必要な持ち物の絵と文字カードのマ</p>	<p>1. 遠足は、どこへ行くの。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 歌をうたおう。 <p>2. 前に出て、絵の下に文字カードをはろう。</p>	<p>1. 文字カードを1字ずつ読ませる。途中、読めない字があり(㊦)んぐりのと援助し、言わせた。子どもまで行くと、後ののくには続けて答えた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 声を出して歌わなかったが、身体表現でリズムをとっていた。 <p>2. 間違えてはったのがあり、指摘するが困った表情。</p>

<p>ッティングをする。</p> <p>3. 持ち物の絵と文字カードのはり絵をする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> • 何て読むの。 • ○○と読みます。 <p>• 友達が間違えたのを見て直そうとしたので「手伝えてあげてね」</p> <p>3. 最初に持ち物の絵をはろう。</p> <ul style="list-style-type: none"> • Kちゃん、次どれにしよう。 • 次に、文字カードをはろう。 	<ul style="list-style-type: none"> • 答えることができない。 • 正解することができた。 <p>友達がしている間、前に出て、手を叩きながら見ていた。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 「ここだぞ」と言いながら、直してあげた。 <p>3. 意欲満々ではり始める。途中、友達のしている姿を見て「これだが」と言って気をとられ始めた。</p> <ul style="list-style-type: none"> • その一言でまたし始める。 <ul style="list-style-type: none"> • 1字ずつ読ませながらはらせた。1つはるごとに手を叩いて喜んだ。結局、同じものを2枚した。
--	--	--

おやつ作り (10月 於教室)

学習の流れ	K子に対する働きかけ	K子の様子
1. 身仕たくをする。	1. 茶巾しぼりをするからエプロンをとってきて下さい。	1. 引き出しの中にあるエプロンを取りに行く。
2. いもを洗う。	<ul style="list-style-type: none"> • 遅い子がいたので「○○ちゃんのも取ってきてね」 <p>2. 水道の所の行っていもを洗いましょう。</p>	<ul style="list-style-type: none"> • ○○ちゃんのエプロンを取ってきて、着がえさせようとした。 <p>2. いもを切ることがしたいのか、ナイフの方ばかり見ていた。数回、洗っただけで後は、教師と一緒に洗った。落ち着きが見られず、席を何回も立とうとした。</p>
3. いもの皮を洗う。	3. 皮むき器を与え、これが済んだら、切ろうね。	3. 最初は、ほとんどやろうとしない。
4. いもを切る。	<ul style="list-style-type: none"> • となりで皮がむき終わり、切り始めた子がいたので、「むくと、Kちゃんもできるよ」 <p>4. さあ、むけたね。今度はKちゃん得意のいもを切る時が来ましたね。たくさん切ってね。</p>	<ul style="list-style-type: none"> • しぶしぶむき始める。し始めると声かけに励まされながら、むいていった。 <p>4. やっと切ることができたので、うれしそうにしながら切っていく。切る前に友達のまな板を持ってきてくれた。とても意欲的であった。</p>
5. ふかしたいもをこねる。	5. ほうでやわらかくなるまでこねてね。	5. あまり好きではないのか、のりが今一つであった。時々、指ですくって味見をしていた。

以上、3つの場面を見ると、自分勝手な行動をしたり、意欲がなかったりしたこともあったが、K子の興味や関心をひく内容を授業の中に組み入れたことは、クラスのみならず共に少しでも楽しく意欲をもって取り組める場面ができ、効果があったと言える。また、仲間意識を持たせたことで、学習以外の場でも友達を意識する場面が、少しずつ見られ始めた。しかし、パターン化し繰り返し学習させ、見通しを持って行動することにおいては、K子にとって難しいことであり、教師の指示や援助がまだまだ必要である。

4. まとめと今後の課題

2学期の中ごろから、ようやくK子とのラポートがとれ出し、また、クラスという小集団の中では、その一員として活動していこうとする意識が芽生えてきた。しかし、クラスの子どもたちの遊びの種類が違うため、集団での遊びをどのようにさせていくのか、発作の影響もあってか、明暗の表情が極端になることがあるため、どのような手だてをこうすれば情緒の安定が図れるか、興味や関心を持っていない時どんな指導をすればよいのか、頭が重く、アンバランスな身体をしているので、身体的な面を考えていかなければならないなど、今後の課題として残している。あせらず、十分時間をかけて取り組んでいきたいと思う。



K子と共に歩んだ毎日であったが、今後もみんなと一緒に生活していくことを通して、少しでも多くの場面で、その楽しみが感じられるのを期待すると共に、K子の成長を願ってやまない今日このごろである。